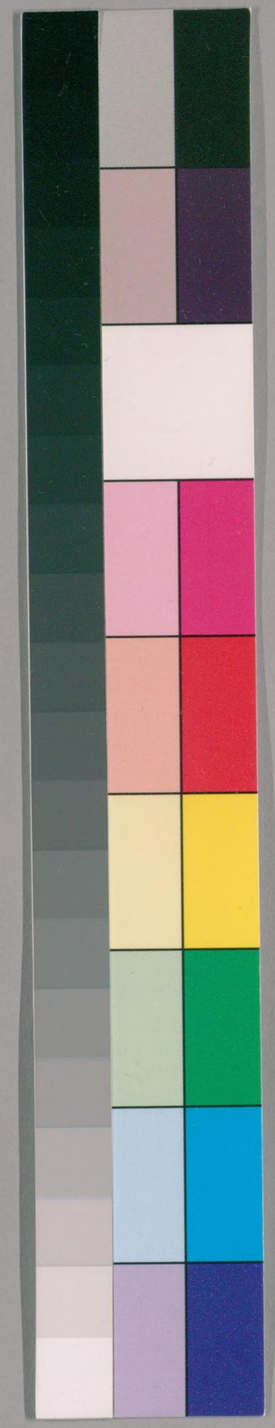
860
28
43



国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

860-43

前田流節付

平家物語

十冊

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

北國下向

小玉下向

口説　寿永二年之月上旬ニ本宮乃
冠者義仲之後の佐粉網不快乃事
[illegible]ニ[illegible]ハリ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]の事
乃右之後の佐粉網本宮迄付の事ニて
之場十万餘騎を引率して信濃の

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

屋紀よりしの　コリカケ　二代寒戒河川て
小金へ討ちと指向し給ふ　拾　大将軍
小ハ小松の三位の中将惟盛越前の
三位通盛副将軍ハ其ハ其の為忠
度皇后宮の竜領政法師の為信
房三河の為知教侍大将ハ越中の為国

盛後上総の大夫の判官忠綱北陸の大夫
の判官ハ京高河内の判官秀ぎ為
乃判官也総武蔵の三郎左衛門ハ
越中の次郎兵衛盛俊上総の五郎
忠光悪七兵衛ハ京法を先として以上
大将軍六人相見べき侍三百騎人

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

十五騎が上矢のうぶらを取りて唯一
度に平氏の陣へ乗り村の方の平家
の方にも同じく精兵をさぐりて十
五騎陣の面に進まや十五のうぶらを
村迄さに源氏二十騎をおひて二十
の鏑を射ますと進ばや平家も二十騎と

おひて二十の鏑を村迄に源氏五
十騎をおせば平家も五十騎をおし
百騎をおせば百騎をおしに東方百騎
ばく陣の物りてにまちまや平ひに騎
負をせんとしたゆりけれども源氏の
方より制して能て勝負をばせざ

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

侍大将上総の大夫利皮忠保兼頼の大夫
の判官京高河内の利皮兼宝も此者の
座に埋置てどうせふりる家に徒中の
宝乃住人淑の屋の太所兼扇ハ此の日
御供奉りしかども運やこしふりんと爰
少宝まで加賀の宝の住人金光の御
成院が手に鎖りて生捕まつてせられ
まゝ鍼の宝火焔が城まで返り忠し
たりし年泉ちるの中夏兵衛威兼師
もとゝ運てこそ古体道本方殿を
法師修りにくまに先斬道とてきる
せらる大将軍惟盛通盛ハ嵩まにし

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43
ガラス使用

て加賀の国へ引退く　コワリヤケ　七万餘
辞が中よりまぼり二千餘辞とものがれ
たる　白戸　同じ九十二日夏の秀平
が許より本多殿へ龍歸二疋なる一疋
は黒月毛一疋は連銭何も毛なり本多
殿数て、さるに頂ぐ、意をて白山

乃社へ　ハツミ　神馬に立て給　口説
本多殿今は思ふまゝ取しとて、おはし
なるが但し伯父の十所義人殿の志
保の戦いとて覚来なられいまや往
て見んとて四万餘辞の中より馬や
人をまぐりて二万餘辞まで絶望

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

平家の事の大将軍之河の事 元教討事
まひぬ是ハ入道相国の末子なり、其外
其多くたびかなり平家をこそも追
落さまして加賀の国へ引退く本当
が此一筋修行志保の山うち越てのと
乃小田中新王の塚の前まで陣をとる

雪主臨幸

中音 何ひハ雪主臨幸の地なり風
闕宣しくいしずへを敷し鸞輿只
中行 跡をとゞむ或ひハ后妃於宴の
みぎり始り椒房の風夢かなしき掖
庭の霧庵うまして 初重 粧境翠地

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』 請求記号 860-43
ガラス使用

聖主開幸

乃すゝい戈林詢諸の鉄槍株の庄悉
寓の正ゝ多日の經營を宣しく
して行体の所焼と如果ぬ いとんや扉
領の屋舎ハ如て是や況や雜人の遊
華ハ如て是や餘燼の乃ふ所在て不て
牧牛所なり 三重甲 強呉たちまちり

てびて姑蘇臺乃嘉荊棘ゝうり
甲 暴秦既ハ如くして威陽高の煙
睥睨を隠しけんも是ハ通しとぞ
見へし 下り 日来ハ函谷二崎の険し
さを高く勢しかども小秋の為ハ是
を破らまし今ハ洪河涇渭の深きを大

のんじかども東夷の為に是をとり
まゐり　初重　是をとり　却やたちまち
に礼義の口をもつ見おさへれて泣く無智
の境に所を易せんとい　初重　中音　さのふ
ハ雲のうへまで雨をくだし神祇より
さのふハいちぐうの木をとりに所を見る

指矢のぶとし　初重　福福原を同
ぶとし壁舞ながぶとを返へ今
国の事に何り　初重　中音　誰か是を思
しまざらん保元の首ハ春の花と
呆へしかども来永の今ハ秋の月と
ぶとし薄呆ぬ　口説　島山の庄司室

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

一門都落

口説　紀の大納言都落の時も紀殿より
火かけて都へ遣らるが為の書の門に
高倉に忘れ遣らるゝまでとて程に付ケ
たる書中ども皆かなぐり捨手勢之
百騎ばかり都へ立て遣れ越中の御

一門都落

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

一千餘人従の六田河原まで行幸り
近付奉らる大臣殿さしも嬉しげに
見のひていかにぬ今までの、迷宗げの
宣給ハ二位の中将中されるハ雅さ
者どもが餘りに志まひ仰を覚えこし
らへ立んと仕る程に夜の外の、迷宗げ

と申されたりけるが大臣殿なを古代
殿をば百ならせられ仰らぬやうんとの
文へば二位の中将行末とても頼母し
ならば思ひ通ひれば　百ケ　間につらさの
演を演されけるとかれしけるを
指　前行平家ハ誰くぞ子の関大

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

正明僧ハ二位の僧都諸寺の
修行所宮中仙々の律師仲時頼綱
乃阿宮梨祐宮民吉ハ更所指北道使
諸府諸国の府百六十人都合七十
餘人是ハ廿三ヶ年が月東国小国方々の
軍ハ討ちさまして終ハ勝ク京都り

指声 平大納言陳忠の江山傍寶戸の代
ハ玉の江喜を舞長さも男山の方を
伏拝て南無阿弥陀頂礼八幡大菩薩
願ハくハ君を始めまいらせて都らを
今一度右ハ西へ返し入させ給へと祈ら
ひるゝを思しひ通 口説 松のく後を

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

860
28
43

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-43

ガラス使用